第6回 木育サミットin徳島

― 地域の課題を木育で解決する ―

2019.2.16 [土] 10:00-16:45 あわぎんホール（徳島県郷土文化会館）

実施報告書

東京おもちや美術館　芸術と遊び創造協会　林野庁補助事業

主催：認定NPO法人芸術と遊び創造協会/東京おもちゃ美術館　共催：徳島県

プログラム

10:00　開会・オープニングセレモニー　1階：大ホール

主 催 者 挨 拶：多田 千尋（東京おもちゃ美術館　館長）
開 催 地 挨 拶：飯泉 嘉門（徳島県知事）
実行委員長挨拶：岡田 育大（フォレストバンク　代表取締役）

10:15　ウッドスタート宣言　調印式　1階：大ホール

徳島県・三好市

10:30　基調講演「地域の木材利用と木育」　1階：大ホール

牧元 幸司（林野庁長官）

10:50　基調シンポジウム　1階：大ホール

指出 一正（月刊「ソトコト」編集長）
椎川　忍（地域活性化センター　理事長）
多田 千尋（東京おもちゃ美術館　館長）
座長：青野 裕介（Tree to Green）

12:10　昼食・休憩　昼食場所：4階 大会議室・5階 小ホール

＊ 昼休み特別ワークショップ（12:10～13:40）＊
『かんな屑フラワーアレンジメント』（愛媛県立三瓶高校）　1階　大ホール前ホワイエ

13:55　分科会

1	「子育て支援の現場で木を活かす　ーその先にあるものは？ー」	5階 小ホール
2	「持続可能な地球の未来を担うSDGs／高校生が木育視点から向き合う」	4階 大会議室
3	「木育×○○　ー徳島の木育プログラムー」	4階 会議室2～4
4	「森林環境税の先にある木育の意義」	1階 大ホール
5	「ウッドスタート宣言自治体企業サミット」	5階 会議室6

16:10　クロージングセレモニー　1階：大ホール

とくしま木育共同宣言　※とくしま木育共同宣言については10・11ページをご覧ください。

16:45　閉会　閉会後、小ホールにて懇親会を行います。17:30～開始予定　5階：小ホール

❖ ウッドスタート宣言調印式

徳島県と徳島県三好市は、ウッドスタートを宣言した。
徳島県は県としては滋賀県に次ぐ2番目のウッドスタートで、来年度以降、特に県内での木育推進の旗振り役となるような人材の育成に今以上に力を入れていく。三好市は、豊かな自然を活かした地域の活性化を推し進める中で、木育を取り入れ、自然とともに生きてきた文化を継承していく。今回のウッドスタート宣言調印式では、林野庁の牧元幸司長官、徳島県那賀町の坂口博文町長の同席のもと、暮らしの中に木を取り入れ、木の持つ可能性を最大限に引き出し、それを子育て、子育ち環境に生かす取り組みを協力し合いながら進めていくことを誓った。

❖ 基調講演：「地域の木材利用と木育」牧元幸司（林野庁長官）

◆林業の状況について

・厳しい現状であるというイメージを持つ人も多いかもしれないが、木材自給率、実供給量等で回復基調にあり、長い我慢の時代（昭和50年代半ば以降の木材価格の下落と、伐るものがない、という時代）が終わろうとしている。

◆森林環境税

・50年、60年生の人口林が50％を超える中、小規模零細な経営も多く、森林の集約化が難しい現状も。そこで森林経営管理法によって、集約化しきれない山を市町村が管理していくための財源として森林環境税を投入していく。（国民一人当たり年間1000円／課税対象は6300万人）

・森林環境税はH36年より国民からの徴収が始まるが、森林環境譲与税は31年度から譲与を開始。大都市にも一定財源がいくこととなり、山がない大都市では木材利用に使っていただくことになる。これは林野庁にとっても大きなチャンスと捉えている。

・大都市は木材利用に必ずしも熱心ではないが、これまで木材利用に熱心ではなかったところも必ず取り組まなければならないため、「木育」をはじめとする木材の利用が都市部でも広がっていく契機になるのではないかと期待している。

◆木育の可能性

・「木づかい運動」を進めるうえで「木育」は重要なテーマであり、全国的に輪が広がってきている。

・宮崎県日南市の木育施設／新宿区と伊那市の連携（ウッドスタートの取り組み）／長門のおもちゃ美術館など、木育のノウハウが全国に広がり地域の活性化にもつながっている。

◆東京オリンピック・パラリンピックを契機として

・新国立競技場だけでなく有明などの施設でも木材を使用することになっており、すべての都道府県の木を活用していく計画。

◆まとめ

戦後植えた木が利用期を迎えており、「伐って、活かして、植える」このサイクルが上手くまわるか、の岐路を迎えている。木育を進め、木材利用を進め、「伐って、使って、植える」サイクルを、林業の成長産業化につなげ、地域の活性化につなげていただきたい。

❖ 基調シンポジウム

来年度より譲与が始まる森林環境譲与税や2020年の東京オリンピックなどによって、森林を多く保有する地域と都市が繋がりを持ちながら、お互いに活性化していくことができる機会が巡ってくる。それぞれの地域が持つ強みを、「関係人口」や「木育」からのアプローチによってより強固なものとすることで、地域の課題を解決してきた事例を取り上げ、今後の地域活性化のヒントを探った。

◆ 各パネリストからの報告

■ 椎川氏（一般財団法人地域活性化センター理事長）

・地域おこしと人材育成がライフワークであり、全国各地を巡り、地域活性化に関する実践を支援している。

・日本人は山を崇め、大切に守り、その恵みに感謝しながら生きてきた。そのことを踏まえるならば、地域おこしのカギは日本人自身の中（内発的発展）にあると考える。国土の８割が山であり、７割が森林である日本人のDNAにあると言っても良い。

・木育は日本人の中に眠っているDNAを呼び起こす活動として非常に重要である。子どもたちへの教育として小さい時から始めることも重要である。

・自治体側で対応できることとして、具体的には、「公共建築物等木材利用促進法」の改正・強化、「木育推進法」の制定、ウッドスタート事業の全国展開、CLTの早期承認・普及というような施策が考えられる。これらの施策が実行されるように、自治体では省庁を超えた人材が連携してもらえることを期待している。

■ 指出氏（月刊「ソトコト」編集長）

・本日は関係人口に絞ってお話しをしたい。関係人口とは、観光以上定着未満の第三の人口を指し、地域おこしのカギは関係人口にあると考え、さまざまな地域での『関係人口』づくりの活動を支援してきた。

・関係人口を増やしていくためには、「地域を編集」することが重要であると考える。インターネットが普及した現在では、旅行などで地域を訪問する際には、「事前に」提供される情報が多すぎて、実際に地域に入ったときに直接的に触れることができるモノやコトに意識が向きづらいように感じることが多い。従って地域側では、提供する情報をできるだけ少なくするように、同時にインパクトを生むように「編集」することが重要となる。

■ 多田氏（認定NPO法人芸術と遊び創造協会理事長・東京おもちゃ美術館館長）

・東京おもちゃ美術館は東京都新宿区四谷の地で約10年前にオープンした。日本国産の木工おもちゃの自給率は木材自給率よりずっと低い数%程度である状況を鑑みて、東京おもちゃ美術館の設立に当たっては、日本中の木材を集め、木のにおいがいたるところで感じられるようなミュージアムにしたいと考えた。特に、赤ちゃん木育ひろばでは、全国から杉の木を集め、床材からトンネル遊具、おもちゃに至るまで多種多様な杉の良さを実感できる部屋になっている。

・オープンして約10年が経過し、年間で15万人を超える入館者をお迎えする施設となり、そのようなおもちゃ美術館の輪が全国に広がってきている。

・山口県の長門市では昨年4月に「長門おもちゃ美術館」がオープン。地元観光汽船の会社との連携を通じて「船とおもちゃ美術館の一体構想」が実現し、おもちゃ美術館を中心とした関係人口づくりの好事例と考えている。山口県産の椎の木を内装やウッドデッキなど至るところに活用し、存分にアピールすることができた。

・秋田県の由利本荘市では昨年7月「鳥海山木のおもちゃ美術館」がオープン。地元鉄道会社との連携を通じて「電車とおもちゃ美術館の一体構想」が実現した。国登録重要文化財であるとても美しい旧小学校をリノベーションして、秋田県産木材が随所に感じられるおもちゃ美術館として、特に夏場は東京おもちゃ美術館をしのぐ盛況振りであった。

◆ 全体討論のまとめ

・木育とは、森林や木の関係人口を増やす取組みということができるが、それは単に施設を木質化するような活動を指すのではなく、地域内外の色々な人たちが連携して、その地域の森や木を活かすコトを『自分ごととして』行うような活動を指すと考える。またそのような活動が『楽しい』から自動的に輪が広がっていき、継続性を生んでいく、というサイクルも非常に重要である。

・全国に広がる地域おもちゃ美術館構想は、そのような地域活動のシンボリックな存在として、ますます広がっていくことが期待される。

■パネリスト

椎川　忍
一般財団法人
地域活性化センター理事長

指出 一正
月刊「ソトコト」編集長

■座長　青野裕介
株式会社 Tree to Green
代表取締役

多田 千尋
認定NPO法人芸術と遊び創造協会理事長・
東京おもちゃ美術館館長

分科会 1 「子育て支援の現場で木を活かす ーその先にあるものは？ー」

「木育」とは「木」で何かを「育む」こと。木のおもちゃを使って、子どもの豊かな心を育む。木の空間を利用して、子育て／子育ち環境を豊かにする。そんなことも「木育」の意義のひとつである。行政、企業、民間団体それぞれの立場から、第一線で木のチカラを活かしながら子育て支援を行っている方々に語っていただいた。子育て支援になぜ木が必要なのか？そして子育て支援に木が果たす役割は？ そんな視点からディスカッションした。

◆ 質問・意見交換

① 保育園や幼稚園から企業を巻き込んで木育がしてみたい。

・活動の一環で木育のおもちゃの寄贈をおこなっている。木育おもちゃを使う際には、先生にも木材についての使い方を勉強してもらって使用してもらっている。（長野氏）

・四国大学の学生から、「もっく」の活動スペースで木育を手伝ってもらっている。学校の先生には木のおもちゃの研修を行ったり、免許の更新の際には徳島木のおもちゃ館での木育作製を行っている例もある。（松﨑氏）

② 乳幼児を対象とした木育は多いが、小学生や中学生など成長段階での木育をどう考えるか。

・道の駅に作った木育広場でも来場している人は大人がほとんど。（宇佐美氏）

・今回は子育てがテーマであるが木育はおもちゃに限らない。年齢に合わせてアロマで香りを楽しんだり、木のカンナ屑を利用したコサージュなどを楽しむことなども木育。（長野氏）

・親子で積木遊びをしていても、大人が遊ぶということにこだわる必要がない。ただ積木を握ることも木育。また大人（老人）と子供を繋ぐツールにもなる。（松﨑氏）

③ 学校で子ども達と接すると「なぜそうなるの」を子ども達は何にでも興味を示す。子どもたちは興味どんな切り口でも木育ができると考えている。

④ 行政の面で考えると安全面に心配がある

・木育リーダーでは公衆衛生や感染症予防についての勉強している。また木の積み木の角を取るなどの安全策を施している。（松﨑氏）

・東京おもちゃ美術館では必要に応じて消毒や水拭き、やすりがけなどを行っている。（東京おもちゃ美術館職員）

⑤ 木育するためにお金がないので企業と繋がりたい。

・企業にもメリットがないと動いてもらうのは難しい。準備が必要。提案、プランをしっかり練る必要がある。また、オイスカでも力になれることなら相談して欲しい。（長野氏）

■パネリスト

松﨑 美穂子
NPO法人子育て支援ネットワークとくしま 理事長

宇佐美 晃三
岐阜県大野町長

長野 純子
公益財団法人オイスカ　国内環境事業担当

■座長

塩路晶子
鳴門教育大学大学院 准教授

分科会 2　「持続可能な地球の未来を担うSDGs/高校生が木育視点から向き合う」

世の中が「環境」をキーワードとして大きく動こうとしている。「ＳＤＧｓ（持続可能な開発目標）」ということばに象徴されるように、生き方そのものを問い直し、地球環境にとって、将来の世代にわたって、大切なライフスタイルや企業のあり方を模索する動きが活発になっている。こうした潮流に若者たちがどう関わっていくか。教育の現場で、主体的に「環境」について考えている高校生に登場してもらい、地球環境と木育との関わりについて考えた。

◆ 質問・意見交換

■泊氏より、それぞれの地域生活との文脈と接続するような質問があった。

（Q）那賀町の特色であるドローンを林業以外でもどのように活用できると思うか？

（A）ドローンについてはあまりイメージがない。（那賀高校生）

［座長茅野氏より、長野県伊那市長谷地区ではドローンを使った生活物資の運搬などの実証実験が行われていることを紹介］

（Q）林業女子から林業大学校へ進学した生徒がいたことに対して、林業の業界でどういう活躍の仕方があり得るか？

（A）木材生産の現場というより、マーケティングの部門で活躍したい。（林業女子）

（Q）上浮穴高校のカホンと久万山五神太鼓とのコラボの可能性は？

（A）リーダーの男子が太鼓の担い手でもある。コラボの可能性もあり得る。（上浮穴高校生）

■長野氏より、「こういう高校生がいれば林野庁は将来必要なくなる！」という感動の声とともに、なぜ高校生の皆さんが林業に興味を持ち、高校生活を送っているのか、との問い。那賀高校には奈良県から来た女子高生がいて、高い志にパネリストも感動していた。

■尾崎氏からは、学校以外の人との協働が進んでいることに着目し、そこから得られる地域の変化や手応えについて、また地域にいて感動した瞬間などについて問いかけがあった。林業女子からは報告でもあったように、神山の人びとから「林業女子 がんばって、神山をよくしてくれてるよ」と声をかけられることにとても手応えを感じている、という返答があった。

◆ コメント（パネリストより）

尾崎氏より、SDGsについては、ビジネス業界が動いているが、学校教育はなかなか進んでいない。そういう中で、この三校の取り組みはじつは最先端を行っている。

長野氏より、都市と農村の分断が今ほど進んだ時代はなく、地方の力はそのつながりを快復させる力がある。そのための共通言語としてSDGsを使って、地域のことに翻訳していく作業が大事である。

泊氏より、小松島西高校のことを引き合いに、この三校がやりたいことに、今は活動資金が集まる世の中になっている。やりたいことができる世の中になっていることをふまえて、ぜひ取り組みをさらに発展させてほしいとエールが送られた。

■徳島県立那賀高校　森林クリエイト科

平成28年に開設された、森林を創造的に学ぶ徳島県内唯一の単独学科。伐木や製材、木に新たな付加価値を生み出す商品開発、地域の伝統文化・技術の継承や森林資源の魅力を次代につなげる木育活動を実践している。また高性能大型林業機械やドローンの資格取得など、ICTや先端技術を導入・活用した「スマート林業」と「グローカルな視点」で地方創生の担い手を育成している。

■愛媛県立上浮穴高校　森林環境科

愛媛県の山あい、古くから林業が盛んな上浮穴郡久万高原町に位置する上浮穴（かみうけな）高校は、全校生徒123名の小規模校です。普通科と森林環境科の2学科があり、地域と密着した様々な活動を通して、魅力ある学校づくりを目指しています。今回は、森林環境科の「カホン（ペルー発祥の打楽器）」を使った取組を紹介しながら、SDGsについて一緒に考えていきたいと思います！

■徳島県立城西高校神山分校　森林女子部

徳島県立城西高等学校神山分校は豊かな自然と地域連携をフィールドにして、神山町の創生戦略「まちを将来世代へつなげるプロジェクト」を進めている。私たち森林女子部はそのプロジェクトの一つである「林業活性化」に貢献しようと４年前、先輩達が立ち上げたチームで現在は神山に眠っている豊富な森林資源を活用した木育活動を、地域と連携し後継者不足にストップを掛けようと頑張っている。

■パネリスト	尾崎士郎	鳴門教育大学　副学長
	泊　健一	徳島合同証券株式会社 代表取締役社長
	長野麻子	林野庁木材利用課長
■座長	茅野恒秀	信州大学人文学部　准教授
■企画協力	(株)フォレストバンク	

分科会 3　「木育×○○ー徳島の木育プログラムー」

継続的に地元徳島で木育プログラムを実践している「WOOD ACTION」の方々が中心となって、「木育ワークショップ」を行った。この取組が他とひと味違うのは、木の「ものづくり」を通して、「森」と「くらし」をどうつなぐかを中心に据えていること。単なる「木工」ではない、「ものづくり」だけでもない、本当の意味での「木育」ワークショップのあり方を、体感しながら、参加者みんなで真剣に考えた。

◆ 木材産業や林業という職種を知ってもらい、理解を深めてもらえるようなWood Action独自のプログラム（お箸づくり、塗り壁体験、つみき建築体験）を実施した。

【1】木育×学校

・那賀高校森林クリエイト科（3年前に設立された森林率95%の那賀町唯一の高校）商品開発のプロジェクトを実施し、開発された「スマホたて」は東急ハンズでも販売された。

・木育円卓会議
那賀高校、徳島科学技術高校が参加。公園の遊具を木で作ることで、災害時に役立つのでは（暖をとる、ご飯を作る）などの意見があった。

【2】木育×自然体験

・「森へ行こう!」と題し、「あいあいらんど」にて、子どもたちが実際にチェーンソーで木を切るなどの体験を行った。

【3】木育×企業

・徳島銀行100周年記念行事に、お得意様対象で「木の時計」を作るイベントを実施した。

・イルローザでは、「木のバームクーヘン」を作るイベントを実施した。

【4】木育×木づかい

・木糸等の商品開発

【5】木育×食育

・目的 …「意欲・志の高いかっこいい」若手木材産業従事者との交流

・とくしまキッズファーマープロジェクト（4～12才を対象）植付から販売までをこどもたちが体験する。

＜実際に体験した子どもが前に出てインタビュー＞

・とくしまマルシェでの販売体験が難しかった。お客さんに魅力を伝える点が難しかった。

・お箸づくりが楽しかった。

○ 参加者は3班に分かれて、終了時間まで、お箸づくり・塗り壁体験・つみき建築体験を行った。

庄野洋平　株式会社那賀ウッド　統括マネージャー　／　Wood Actionメンバー　今川木材、富永ジョイナー、フォレストバンク、那賀ウッド

分科会 4 「森林環境税の先にある木育の意義」

2019年４月から森林環境譲与税の付与が始まる。そして木育との関連で言えば、その最大の特徴は、森がないもちろん林業もない都市部にも、かなりの金額が「譲与」されることである。木材の消費地である都市部において、このお金をどう活用するのか。多くの自治体の税収入が減少する中で、これは木育推進の絶好のチャンスともいえる。都市部の人びとの暮らしと森をどうつなぐか。その有効な「連結」のしくみと方法について考えた。

◆ プレゼン

■永井　壮茂氏

川上から川下までのサイクル、森林の担う役割、取り組むべき林業施策（林業の成長産業化等）などについて説明があった。そして、森林整備を行うために森林環境税創設の趣旨、森林環境税の譲与配分や使途についての説明があった。

■馬田　勝之氏

はじめに、馬田氏の会社概要についての説明があった後、NHKの朝ドラ「とと姉ちゃん」での撮影エピソードや「Green City Tokyo」における取組事例、木窓や飾り板等の身近な木づかいの例について紹介があった。

■大阪　省吾氏

徳島県木材買方協同組合についての概要説明の後、移動木工教室やコンクールの開催といった取組事例について紹介があった。「木育を通して子供たちに森林を学んでもらったうえで、今後の森林整備に活かしてもらいたい」と話した。

◆ ディスカッション

●都会に住む女性の間で流行している、木を使ったワークショップ

・会話の中で木について触れる、自分で作ったものを大事に使うことで生涯木育につながるのではないか。現在の生涯木育は赤ちゃんのときのおもちゃから棺桶に飛んでいるが、小学生での勉強机といった段階的なものができるといい。

●地域の様々な業界の連携が大事

・木育サミットのような機会を活かして話し合いの場を設ける。林業は、川上と川下のそれぞれの業界で二極化しやすいが、自治体はもちろん、林業関係以外の様々な業界の方々もみんなが地域のために手を取り合って、税の導入をきっかけに森林林業や木育について考え、しっかり取り組んでいくことが、産業の活性化につながると考える。

●「森林環境税を未来の世代に活かせるように」

・小さいころから木に触れる機会を作ることが大事。林業は他の産業と違い、100年サイクルであるため、「次の世代につなげるツール」として木育を活用しながら、森林環境税創設の目的を達成するための取組を進めていただきたい。

■パネリスト

永井 壮茂
林野庁計画課　課長補佐

馬田 勝之
東京木材問屋協同組合理事、
三幸林産株式会社代表取締役

大阪 省吾
徳島県木材買方協同組合　専務理事

■コメンテーター

内藤 佐和子
徳島活性化委員会代表

■座長

岡田 育大
株式会社フォレストバンク代表取締役

分科会 5 「ウッドスタート宣言自治体企業サミット」

全国に広がるウッドスタート。すでに60を越える自治体、企業が宣言をしている。その中から、先進的な木育推進の取組について報告、その切り口は「地域課題解決」。若者の流出、担い手不足、赤字ローカル線、コミュニティの弱体化・・・全国の多くの自治体が抱えている地域課題の解決のために、木育がどう寄与できるのか。そしてそこに企業はどう貢献できるのか。そんな今日的なテーマを考えるために、全国からウッドスタート宣言自治体、企業のトップが参集した。

◆ 質疑応答・意見交換

■椎川氏（地域活性化センター）

・地域活性化はなんでもネタにできる。地域特性・トガったものを目立たせる、ウッドスタートを今のうちにやる。

・おもちゃ美術館のようなものを作って、徳島から始めて四国に広げていくことができる

・木育は究極の林業振興である。

・価値観が多様化しているいま、山側の自治体が都会の自治体を巻き込んでいけるとよい。

・都会こそ木育を進め、たくさんの人が林業について理解していく必要がある。

■道明氏（林野庁）

・木材の利用拡大につなげるため、大きな活動となるようネットワークをつなぎたい。

・地元の中だけでなく、他の町、他県の木のおもちゃ、木製品を見て、どのように考えていくか、が大事。

■一條氏（一條ランバー）、熊木氏（熊木住建）

・我々は天の恵みである木材を社会に還元する。

・企業が木育をやることによって、市民とつながることができる。

■野村氏（まちのちから合同会社）

・「木育」でつなぐ＝「住民・民間を通す仕組み」が大事であり、それが地域で課題を見つけ出す力にもなる。

■新居浜市職員

・ウッドスタートの効果をデータベースとして蓄積するべき。木育キャラバン開催時にアンケートをやってデータで結果が出ているので、今後取り組みを検討している市町村等に提供していけたら良い。

■道明氏（林野庁）

・人材育成をしていくことも大事。木育インストラクター等を活用してほしい。

■まとめ

・自分たちの地域だけでなく、他の自治体等も巻き込んでいくことも必要。

・トガった取り組み（他がやっていないこと）をやってみる。「木育」を通すことで民間・地域住民につながっていく。

・人づくり（熱い想いを持ってくれる人）も重要。

■パネリスト

坂口 博文
徳島県那賀町長

伊東 翼
富山県氷見市
建設部花みどり推進室

熊木 宏行
株式会社熊木住建　代表取締役

一條 達雄
一條ランバー株式会社
代表取締役

とくしま木育共同宣言

「木とふれあい、木に学び、木でつながる」木育活動を通して、

1．森林と地球環境の保全につとめ、持続可能な社会の実現を目指します

2．子どもたちの豊かな心、感性と人間性を育む環境づくりを目指します

3．豊かな森林資源の有効利用を促進し、地域活性化を目指します

4．素晴らしい木造伝統技術や木の文化を継承し、これらに親しみ
大切にする心を育てます

5．産学民官が連携して、次世代の優れた人材を育てます

『木育』という言葉は、2004年に北海道で初めて提案され、2006年に閣議決定された「森林・林業基本計画」において「市民や児童の木材に対する親しみや木の文化への理解を深めるため、多様な関係者が連携・協力しながら、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ、「木育」とも言うべき木材利用に関する教育活動を促進する」と明記されました。これを受けて林野庁では木育を推進するための委員会設置や指導者養成を進めてきました。また全国各地のNPOや団体が木育活動を開始し、木育によって、人と森林との関わりを主体的に考えるための取り組みを実施してきました。

現在、日本国内の人工林は50%以上が主伐期を迎え、森林資源の有効活用とともに計画的な再造成をすべき時期でもあります。国産材の利用をめぐっては、非住宅建築物への利用やエネルギー利用等、従来の利用方法以外への転換と新たな需要拡大に向けた取り組みが進んでいます。

国際社会においては、「持続可能な森林経営」(Sustainable Forest Management)から生産される木材の加工・流通・消費過程における経済的・社会的・環境的便宜をすべて包含した新たな概念『Sustainable Wood Value Chain』の構築への転換が図られるようになり、日本国内では国産材の利用割合を高め、新たな国産材需要を創出するための取り組みが重要となっています。そしてこれらの施策を実施することによって、森林資源の再造成・育成のための資金を山元へ還元し、「伐って→使って→植える」という国産材利用のサイクルを構築する必要があります。

また、2015年に国連サミットで採択された『持続可能な開発目標(SDGs)』に対しては、木材利用による直接的・間接的な貢献が可能であり、政府だけでなく市民レベルでの様々な連携の構築や取り組みを進めていかなければなりません。

日本国内においては、2019年度から森林環境税の譲与が開始されることとなり、山林を多く抱える地域だけでなく、都市部においても森林整備やその促進に対して取り組んでいかなければなりません。私たち一人ひとりが、日本の森林環境に責任を持ち、携わる時代がやってきます。

そこで、今日、ここ徳島県に集った私たちは、木育を中心に据え、業種・地域・年齢など様々な枠を超えたアプローチや連携を取ることで、日本国内の森林が抱える課題解決に立ち向かい、国際社会においても責任を果たすべく、とくしま木育共同宣言をいたします。

◆とくしま木育共同宣言文の解説

とくしま木育共同宣言　［宣言文本文作成の基本方針］

・各宣言文の作成では、簡潔、明瞭、平易かつ親しみやすい表現や内容とした。
・徳島からの木育共同宣言として、地域、徳島県と日本全国の木育の理念として相応しい内容とした。
・将来の地球規模の持続可能な発展、世界の人々の幸福に貢献できる理念となることを願い作成した。

1．森林と地球環境の保全につとめ、持続可能な社会の実現を目指します

森林が有する国土の保全、水源の涵養、生物多様性の保全、地球温暖化防止や災害防止、木材等の物質生産などの多面的機能を発揮することが、川上から川下や海までを含む人による持続可能な生活の向上に繋がります。産学民官が協働し、木育活動によるこれらの森林と地球環境の保全とその普及啓発を行うことを通して、持続可能な社会の実現を目指します。

2．子どもたちの豊かな心、感性と人間性を育む環境づくりを目指します

社会の変化が激しい現在においては子どもたちや子育てをめぐる環境が変化し、子育てを社会全体とともに地域において、質の高い支援をあらたに考えなおすことが求められています。子どもたちとの木の香りや温もりに溢れた木育活動を通して、さまざまなものごとについて自分なりに感じ取りそれを自分の態度や言葉で表現できるような豊かな心、感性と豊かな人間性を育むあらたな環境づくりを目指します。

3．豊かな森林資源の有効利用を促進し、地域活性化を目指します

現在、日本は森林資源の本格的な利用期を迎え、これらの循環利用の観点から、豊かな森林資源の有効利用を促進するとともに、林業と木材産業ほか異業種団体、行政関係者、さらに子育て支援や地域の人々との幅広い交流による木育活動を通して、それぞれの持続可能な発展に貢献することを視野に入れながら、地域の活性化を目指します。

4．素晴らしい木造伝統技術や木の文化を継承し、これらに親しみ大切にする心を育てます

日本には木材の性質を巧みに活かして製作した素晴らしい木製品、工芸品、木造伝統技術による和の建築技術や、それらの利用によって培われた木の文化が存在しています。木によるものづくり教育活動を含めた木育による普及啓発活動を通して、これらの素晴らしい製品、木造伝統技術や木の文化に対する理解を深め継承し、親しみ大切にする心を育てます。

5．産学民官が連携して、次世代の優れた人材を育てます

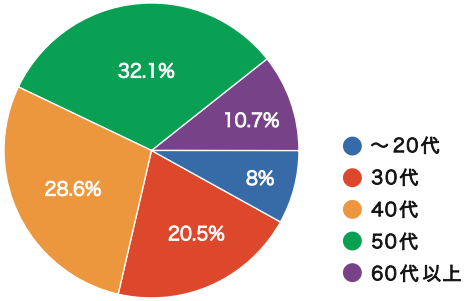
産学民官の連携による木育活動を通して、持続可能な森林資源の育成、森林環境整備、木材利用促進の普及啓発とともに、持続可能な社会の構築と実現に貢献できる次世代の優れた人材を育てます。

とくしま木育共同宣言　賛同者一覧

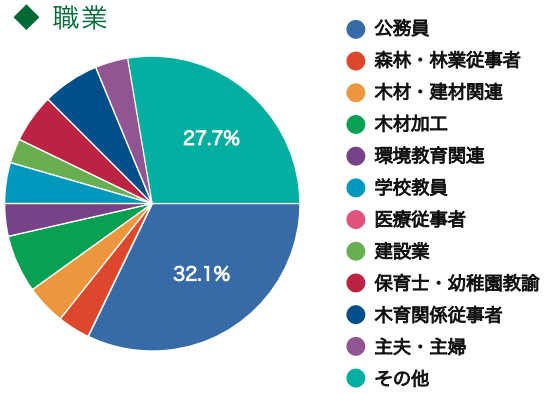
株式会社 阿波林材
株式会社 ボン・アーム
徳島製材団地協同組合
株式会社 Renati tura
エヌ・アンド・イー株式会社
徳島県森林組合連合会
特定非営利活動法人 徳島県森林保全文化協会
徳島市木材業協同組合
徳島県木材買方協同組合
有限会社 平井製材所
株式会社 徳島銀行
東京木材問屋協同組合
一般社団法人 徳島県森林協会
徳島県中小企業団体中央会
公益社団法人 徳島森林づくり推進機構
マツシマ林工株式会社
株式会社 日新　四国工場
NPO法人 とくしま山・すまい・まちネット
徳田育子
株式会社 ウェブチップス
森を育む紙製飲料容器普及協議会
東京木場製材共同組合
SGSジャパン株式会社
株式会社 那賀ウッド
株式会社 サスティス（那賀町オフィス）
株式会社 フォレストバンク
Wood Action
相生森林文化公園あいあいらんど
PHOTO浩
徳島文理小学校
岡田育大
中村守孝
東京原木協同組合
プリズム建築設計室
淡路里山を未来につなぐ会
ファイナンシャルアライアンス株式会社 大西 弘真
株式会社 YMO総研
藪田 ひとみ
今川木材（有）
富永ジョイナー（有）
徳島洋菓子倶楽部 イルローザ（株式会社　昌栄）
まちのちから合同会社
鈴木 智恵子
上長野 ゆみ
森の研究所
小林 憲司
須原 仁志
NPO法人 子育て支援ネットワークとくしま
アステリア株式会社
日本アジアグループ株式会社
パルシステム生活協同組合連合会
株式会社 長谷川萬治商店
かわい幼稚園
生活協同組合パルシステム神奈川ゆめコープ
渡辺トオル
ネッツトヨタ和歌山株式会社
株式会社 内田洋行
学校法人足立学園 認定こども園リーチェル幼稚園
学校法人 久山学園 青梅幼稚園
株式会社 熊木住建
認定こども園 松崎幼稚園
学校法人 池谷学園　グリーンヒル幼稚園
株式会社 山長商店
株式会社 トクジム
林 真紀
株式会社 高倉木材
社会福祉法人 めぐみこども園
生活協同組合パルシステム東京　ぱる★キッズ府中
生活協同組合パルシステム東京
社会福祉法人 一穂会 ねむの木保育園
社会福祉法人愛育会美濃保育園
NPO法人 アクア・チッタ
株式会社 ネオビエント
株式会社 グラント・イーワンズ
ひらいホールディングス株式会社
NPO法人 もあな自然楽校
日清産業
有限会社 小瀬木木工所
おおにし企画有限会社
株式会社 東京チェンソーズ
三協商事株式会社
陽地防水工業
飛騨五木株式会社
有限会社 アール・エム
フルタハジメ
株式会社 Tree to Green
一條ランバー株式会社
長門おもちゃ美術館・NPO法人人と木
由利本荘市 鳥海山木のおもちゃ美術館
織田 智佳
株式会社ウエスト
庄野 昌彦
徳原 浩介
木のおもちゃデポー
中島 清人
平林 遥
渡邉 芳彦
icon木づかいクラブ　林 眞理子
松本 みどり
特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会

アンケート

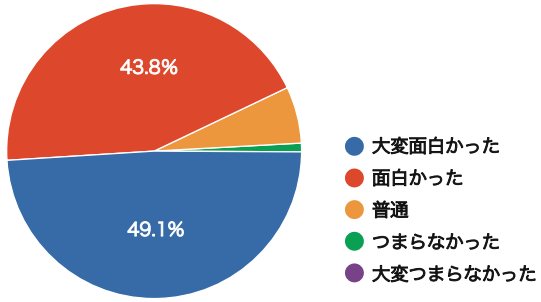
◆ 年齢



◆ 職業



◆ サミットに参加されていかがでしたか？



◆ 参加者の声

・何気なく参加させてもらったのですが、分科会が終わった今では『木育、真剣にやってみたい』と考えるほどです。子どもたちの未来を考えると、とても大切な事だと実感しました。職場に持ち帰って、スタッフと色々相談してみようと思っています。

・言葉としての「木育」は知っていましたが、実際の意味と、すでに全国で行われている取り組みの事例が紹介され、非常に勉強になりました。自分の知識のなさに気づくと同時に、木育への好奇心が高まりました。今回の参加を通して、多くの人が「木育」に非常に高い関心を示して熱気を帯びていることが感じられて、この産業が今後大きく飛躍してゆくであろうと確信に近い気づきがありました。

・（分科会2に参加して）林業の町に住み生活している中で、切っても切れないのが森林、木材、環境である。その中で高校生が考える今後の在り方等、行政に意見を提案して若者が参画する町づくりに繋がると思えた。他校の発表も素晴らしく、後方で指導してくれる教員の努力に脱帽である。今回のサミットに足を運ぶ人は木に関心を持っておられるが、その他大勢の方に、来場された方が口コミやSNSを活用して情報発信していただきたい。

・徳島が県を上げて「木育」に取り組んでいく熱い気持ちが伝わるサミットでした。川上から川下までをつなぐ人たちが協力して、子どもたちに「木育」を教えるということもとても良い活動だと思いました。シンポジウムでは、これからの木育について椎川さんの「教育」、指出さんの「関係人口」、多田さんの「木育推進人材育成（おもちゃ学芸員）」というキーワードが出たけれど、その３つは共通して「人」が関わることで、改めて「木育」には「人」が重要だと感じました。

昼休みワークショップ　「かんな屑フラワーアレンジメント」

本ワークショップは、愛媛県立三瓶高等学校が卒業式の際、地元西予市産のヒノキのかんな屑を使って在校生が卒業生のためにしているコサージュ作りを、木育サミット参加者が体験できるもので、当日は1時間半の昼休みに50名以上の方に参加いただいた。3人の男子生徒に丁寧にレクチャーをしてもらい、参加者は各自の活動のヒントを得ようと会話を楽しみながら制作に取り組んでいた。

❖ 次回開催地のお知らせ

2020年2月8日(土)

第7回 木育サミットin新木場(東京)

会場：東京木材問屋協同組合 木材会館

❖ これまでの木育サミット

第1回

2014年3月16日　会場：東京学芸大学芸術館（東京都小金井市）　参加者：約450人
テーマ：『語り合おう　木育の「今」と「未来」』
特別講演　涌井史郎（森林文化アカデミー学長）「木育の意義と意味を問う」
セッション　木育とは何か／川上と川下を繋ぐ木育ビジネス／地域に根づく木育文化　他

第2回

2015年1月27日　会場：新宿文化センター大ホール（東京都新宿区）　参加者：約600人
テーマ：『木を繋ぐ　木で繋がる　木から始まるコラボレーション』
基調講演　今井敏（林野庁長官）「森林・林業政策の観点から木育に期待すること」
セッション　学びの場を木育化する／子育て環境を木育化する／暮らしの場を木育化する　他

第3回

2016年3月11日　会場：レザンホール・塩尻市文化会館（長野県塩尻市）　参加者：約600人
テーマ：『木育を「アルプスの麓」から考える』
特別講演　C.W.ニコル（作家）「心に木を植える」
セッション　暮らしと木育／学びと木育／遊びと木育　他

第4回

2017年2月23日　会場：ティアラこうとう（東京都江東区）　参加者：約700人
テーマ：『日本の未来を木育が創る』
基調シンポジウム　「岐阜県立『森のめぐみのおもちゃ美術館』が目指す木育」
セッション　木育で創る循環型社会／木で育む子どもたちの未来／女子力で木育を広げる 他

第5回

2018年2月24日　会場：秩父宮記念市民会館（埼玉県秩父市）　参加者：約600人
テーマ：『あらゆるライフステージを木育で彩る』
特別講演　薗田稔（秩父神社宮司）「いのちの寄り添う“まほろば秩父”の森が育むもの」
セッション　森と都市をつなぐ／乳幼児期を彩る木育おもちゃ／人生最後のステージを木とともに 他

第6回

2019年2月16日　会場：あわぎんホール（徳島県徳島市）　参加者：約700人
テーマ：『地域の課題を木育で解決する』
基調シンポジウム　「地域課題解決のための木育」
セッション　子育て支援の現場で木を活かす／持続可能な地球の未来を担うSDGs／徳島の木育プログラム　他

協　賛

森を育む紙製飲料容器普及協議会
株式会社 日新 四国工場
公益社団法人 徳島森林づくり推進機構
株式会社 徳島銀行
東京原木協同組合
東京木場製材協同組合
東京木材問屋協同組合
株式会社 レノバ
株式会社 阿波銀行
徳島県木材協同組合連合会
SGSジャパン株式会社
株式会社 ボン・アーム
徳島県木材団地協同組合連合会
徳島文理大学
日本アジアグループ株式会社
マツシマ林工株式会社
株式会社 昌栄 イルローザ
TOTO株式会社
一般社団法人徳島県森林協会
特定非営利活動法人 徳島県森林保全文化協会
徳島県森林組合連合会
タカラスタンダード株式会社
徳島県中小企業団体中央会
徳島合同証券株式会社
徳島県治山林道協会
トヨタカローラ徳島株式会社
ファイナンシャルアライアンス株式会社　大西弘真
株式会社 LIXIL
株式会社 那賀ウッド
徳島市木材業協同組合
徳島県木材買方協同組合
親子写真の出張撮影 スタジオサークル
株式会社 サスティス那賀町オフィス
株式会社 Renati tura
有限会社 平井製材所
コマツカスタマーサポート(株)
近畿四国カンパニー　徳島支店
エヌ・アンド・イー株式会社
徳島製材団地協同組合
クリナップ株式会社
株式会社 阿波林材
株式会社 ウェブチップス

後　援

一般財団法人地域活性化センター
公益財団法人森林文化協会
日本木材青壮年団体連合会
全国木材組合連合会
国立大学法人鳴門教育大学

実行委員会 メンバー

岡田 育大（株式会社フォレストバンク）
大阪 省吾（徳島県木材買方協同組合）
尾崎 士郎（鳴門教育大学）
庄野 洋平（株式会社 那賀ウッド）
鈴木 智恵子（株式会社フォレストバンク）
松﨑 美穂子（特定非営利活動法人 子育て支援ネットワークとくしま）
徳 島 県
特定非営利活動法人 芸術と遊び創造協会／東京おもちゃ美術館

編集後記

この度は、大変多くの方々に木育サミットを応援していただきまして、本当にありがとうございました。木育サミットは、全国各地での木育活動の紹介や共有ができる貴重な機会となり、林業や木材業界にとどまらない多くの繋がりを生み、建設的な意見交換によって、「木の可能性」を創造する素晴らしい機会となりました。

木育は、林業や木材業界の中でも大きな役割を担い、業界の枠を超え、様々な業種への広がりを見せています。今回、徳島での木育サミットにて、多くの方々からのご賛同を得て「木育共同宣言」が誕生しました。木をつかう文化や心豊かな次世代の子どもたちの育成、持続可能な社会の実現に向けての礎となることを期待して、皆様への感謝の気持ちと御礼の言葉とさせていただきます。

実行委員長　岡田 育大

MOKUIKU summit 2019

VEGETABLE OIL INK

ミックス
責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C100230

主催者紹介

東京おもちや美術館

東京おもちゃ美術館は、おもちゃを手にとり、触れて、遊ぶことができる体験型の美術館です。手作りおもちゃを作ることができる「おもちゃ工房」や、季節のイベントなど、子どもだけではなく、大人も赤ちゃんも多世代で楽しめる、さまざまなコンテンツを取り揃えております。また、国産の木材のみで作られた「おもちゃのもり」や、赤ちゃんが木の匂いや触り心地をふんだんに感じられる「赤ちゃん木育ひろば」など、木育にふさわしいコンテンツを多数そろえております。

〒160-0004 東京都新宿区四谷4-20 四谷ひろば内
tel:03-5367-9601 fax:03-5367-9602
http://www.goodtoy.org/ttm

木育情報のポータルサイト 木育ラボ

もっと知りたい！ 木育のこと ウッドスタートのこと

これまでの木育活動は、さまざまな団体がそれぞれ取り組みをしてきました。そこで、こうした素晴らしい活動をしている方々の取り組みを紹介し、全国各地に発信していくためのサイトが「木育ラボ」です。このサイトを中心に全国の木育活動をしている組織、団体を結びつけ、より強固な木育ネットワークの構築をめざして活用していきたいと考えています。

http://mokuikulabo.info/ 木育ラボ 検索